

櫻山風聞記

生きるために食うのか

食うために生きるのか

悩み多き腹ペコたまぎが 太鼓作りに命をかける！

# 昔 たまぎは とんで はねた！



作・演出・作曲／末永克行

振付／モトム

音楽／考



●ただ、ただ圧倒、感動でした。●日本の伝統と芝居のコラボレーションが、こんなにも心の芯を打つ作品になって、新しい世界を観た気がします！何度も何度も、観たい、聴きたい、感じたいです！●冒頭の音楽だけでも胸がいっぱいになり、ストーリーも深いテーマだけにとでも楽しくてあつという間でした。●たまぎと仲間たちの命がけの生き方に気持ち引き締められました。一生懸命生きたいです。●3歳の娘が見ることができると不安でしたが、最後までくいきるように見ていました。初めての観劇がたまっ子座でよかった。●まさに今、たくさんの心配や不安や悲しみを超えてつつみ込む作品。胸が熱くなりました。●平和のために何ができるか、舞台をやるしかない。そうです。●命について考えさせられ、その深さに感動しました。子どもと家族と一緒に見られてよかった。たくさんの人に見てもらいたい、届けたい作品だと思いました。(R4年5月の感想より)



制作にあたって

◆言葉と太鼓を持たない民族はないと言われるほど、世界中で多くの人々に親しまれてきた太鼓。そこに込められた祈りや願い、燃えたるような命の鼓動。明るく力強く、深く染み入る響き。それは、樹をくり抜き皮を張って叩くという、ただそれだけの単純な楽器から生まれます。その不思議さがこの物語を生んだのかもしれない。◆「あいつは何の役に立つのかねえ」と、齢八百年のけやきの爺さんも呆れるほどの、我ががタヌキ。太鼓作りに突っ走る彼を見守るけやき山の住人たち。その視線は、命あるもの皆がかげがえのない存在であることを伝え、温かいです。◆38年前無我夢中の旗揚げ公演以来折りに触れ再演してきた、たまっ子座の原点とも言える作品。劇団代表末永克行の書き下ろしです。子どもたちが、友だちや家族、社会との触れ合いの中で自分らしく成長していく、地球上の誰もが、互いを思い合い生き合う、そんな日々を切望し、太鼓が時を超えて太鼓で在り続ける意味を、皆さんと分かち合えたらと願っています。

太鼓と芝居のたまっ子座